

BRICS+ と国際秩序の未来

エリアス・カレル・ジャブール

Geopolitical Economy

2023-12-16

<https://geopoliticaleconomy.com/2023/12/16/brics-future-international-order-china/>

新しい種類のグローバリゼーションが生まれつつある。それは BRICS+ とグローバル・サウスである。これら全体の政治的将来は中国に大きく依存している。

世界資本主義の歴史

既存の勢力に取って代わろうとする新しい勢力の出現と台頭は、歴史上新しいことではありません。18 世紀以来、国際覇権の変遷の例は数え切れないほどあります。例えばポルトガルやスペインの商業資本主義は、何世紀にもわたって世界の大部分、特にラテンアメリカを支配してきましたが、より進んだイギリスの産業資本主義の出現によって主役の座を降りました。

イギリスによって発足した産業資本主義の今日の隆盛でさえ、異質性を内包しています。よく知られているのは、レーニンが国家発展の不均一性を発見したことです。すなわち後進国が「後進性の持つ利点」を享受し成長する一方で、最先進国が発展の潜在力を失う傾向です。

先進国はこの歴史的傾向を免れようとして力の政策を強めるようになりました。それは経済的には独占資本主義の出現を、政治的には戦争への傾向をもたらしました。

私たちは、紛争の中心が世界大国であった 2 つの大きな世界大戦を目撃してきました。その結果、主に米国を中心とした新しい国際的な政治主体が強化されてきました。

新たな政治・経済システムへの移行

体制の不平等発展と、発展した中心地における停滞の傾向に関して議論を進めます。この 2 つから導かれるのは、歴史発展のプロセスが世界に権力の空間を開くということです。世界の現実は、レーニンが正しかったことを示しています。

また、19 世紀末に米国が統一大陸経済へと変貌を遂げたこと、そしてそれが国際資本主義システムの発展に及ぼした影響を、過去数十年にわたり中国で目撃してきたこと、すなわち世界第 3 位の大国で統一大陸経済が出現し、それが国際政治経済に巨大な影響を及ぼしていることを関連付けなければ、将来について説明することはほとんどできないだろう。いわゆる専門家たちはこのことについてまだほとんど調査をしていません。

これは、BRICS+ と国際秩序の将来について洗練された思考を発展させたいときの基本的なポイントです。

BRICS-leaders-summit-Johannesburg-South-Africa-2023

彼我を超えた歴史的パワーの登場

私たちは今日、世界システムが移行していく新たな波を目の当たりにしています。

一方では世界パワーの新たな極の出現があります。他方では覇権国であるアメリカ合衆国の政治的、社会的、道徳的、経済的分解が加速している歴史段階があります。

このようにして形をなしつつある新しい秩序自体が、第二次世界大戦後、米国によって作られた秩序の直接的産物であることに注目しなければなりません。この秩序は、1970年代後半に新自由主義（レーガノミクス）の台頭とともに加速し、特にソ連崩壊後にはさらに加速しました。

新自由主義と金融危機

金融化が資本主義における蓄積の支配的な原動力となり、新自由主義が世界中の人々の心を掴んだ瞬間以来、世界はさらなる不安定性と予測不可能性のスパイラルに突入しました。

その象徴が度重なる金融危機です。米国の強力な金融が主導するグローバリゼーションは世界の経済地理を一変させました。金融化が資本主義における蓄積の支配的な原動力となり、新自由主義が世界中の人々の心を掴んだ瞬間以来、世界はさらなる不安定性と予測不可能性のスパイラルに突入しました。しかし新自由主義はその限界内ではありますが、少しずつ侵食されつつあります。

各地で新自由主義からの離脱の兆し

1990年代以降、金融危機が再発するようになりましたが、それと同時に、「ワシントン・コンセンサス」（cf 新自由主義の掟）から外れた国家開発を計画した国々が世界でより重要な地位を占めるようになりました。

興味深いことに、1940年代後半にほぼ同時に独立した中国とインドは、惨めな貧しい国から経済大国へと成長しました。この2つを合わせると、今日の世界の経済成長の51%に相当します。

ロシアも、ソビエト連邦崩壊後の過酷な経済崩壊後、原子力、エネルギー、軍事大国として国家資本主義を再構築し、世界の失われた空間を再び取り戻し始

めています。欧州とのエネルギー統合、そして現在は中国との経済的および技術的統合に向けた移行により、地域大国としての地位が強化されています。

過去 40 年間、相反する道をたどりながらも、ブラジルは世界の南半球の中心国としての地位を確立してきました。

アフリカ大陸は、60 年代の独立後、旧宗主国に依存した開発の方針をとってきました。これが深刻な開発貧困に陥ると、今世紀初頭より、中国の経済的支援のもとで新たな独立プロセスを経てきました。

中国とロシアは西側諸国と比較して進歩的な代替案を提起しています。これに呼応してブルキナファソ、マリ、ニジェールなどで新たな反植民地反乱が急増しており、アフリカと世界との新たな歴史的関係を主張しています。

金融グローバリゼーションの破綻

BRICS の形成は、国際経済の歴史的論理に従っています。経済周期の中心である欧米諸国との関連で、それに代わる権力極が周期的に出現する傾向は、資本主義の機能が必然的にもたらすものです。

この傾向は 2008 年の国際金融危機（リーマンショックとそれに続く欧州金融危機）で加速しました。

経済の中心をなす諸国において、一面的な金融化によって深刻な行き詰まりが生じましたが、支配階級にはこれを克服する方法が見当たらず、ひたすらドル増刷を重ねるほかありませんでした。その結果、日本や欧州諸国で危機に対処する能力が明らかに失われました。

米国が唯一の金融勝者として生き残りましたが、それは国際経済に対する米国の威信と影響力を減失したことを意味します。覇権国が自ら作ったルールを破るという矛盾した動きも生じています。

ブレトン・ウッズが賞味期限切れ

グローバリゼーションは米国が育ててきたシステムです。それはソ連・東欧の崩壊と米国への一極集中という過渡的にあっては有効なシステムだったかも知れませんが。

しかしすでにそのシステムは腐朽しつつあります。米国自身が保護主義を振りかざし、金融システムの「大量破壊兵器」としてドルを乱用したためです。そしてパンデミックによって世界的需給チェーンが崩壊し、それを引き金として衰退期に入りつつあります。

今日、世界で私たちが目の当たりにしている行き詰まりは、国連などのグローバル・ガバナンス機関に如実に反映されています。そして、世界経済における新たな重要人物の出現により、ブレトンウッズの下で形成された国際経済の諸制度が時代遅れになり、新たな世界秩序を求める要求を満たすことができなくなっています。

グローバル・サウスの誕生

このような先進資本主義国の行き詰まりの結果として、いわゆるグローバル・サウスが誕生するのは歴史の必然です。

それはまずエネルギー市場と現地通貨を起点として発生しました。そして大規模な国際市場となり得る資格を獲得していくのです。たとえば、中国とアジア諸国との通貨スワップ協定により、すでにドルの使用を不要にする大規模な現地決済システムが構築されています。

そして最近、イランやサウジアラビアが歴史的ライバル関係を解消しただけでなく、ともに新しい構成のBRICSの一部となりました。

「グローバル・サウス」と呼ばれる国々の連なりは注目に値します。それらは北大西洋という縦軸の外側に位置し、異なる発展レベルを持つ異質な国々の集

合体です。BRICS+の政治的将来は、このグループの国々、そして「グローバル・サウス」全体の収斂を目指す粘り強い探求の先にあるでしょう。

国際金融危機を通じて西側の偽善が全面的に暴露されたいま、BRICSには一つの共通認識が生まれました。それは、非西欧社会の発展をささえるには中心となる勢力が必要だという結論です。

そして、その最も優秀な代表者をソビエト連邦と中国に見出しました。これが一方の翼です。

「グローバル・サウス」、特にアフリカはいま、新植民地主義に対抗して独立を求める新たな闘争の波を経験しています。これは、BRICSの将来にも関係します。BRICSは世界を覆う悲惨さと低開発に対する闘争に無関係ではいられないからです。これがもう一方の翼です。

もうひとつのグローバリゼーション

私たちの共通の未来を理解するためもう一つのポイントがあります。それは、この2つ種類のグローバリゼーションが互いに相容れない関係だということです。

中国の王毅外相はこう言っています

「私たちの友人の輪は常に第三世界の中にあります。憶えておいてください。西側の先進国は私たちを試合に呼びません。彼らの目には常に「優越感」を浮かばせているでしょう。西側諸国は常に我々の価値観を軽蔑しています。中国を「後進的」とみなしています。西洋人の目には、常に「東洋と西洋の違い」が存在します。自分が西洋世界に溶け込めるとは考えないでください。また、できると素朴に考えてはいけません」

10月18日、「一帯一路」10周年を記念する大規模な会議が開催されました。このイベントにはグローバル・サウスの多くの国家元首や政府首脳が出席しました。特徴的だったのは、さまざまな場面で中国の習近平国家主席とともにロシアのウラジーミル・プーチン大統領の存在が強調されたことです。

2023年を特徴付ける政治力学の変化に関心を持つ知識人には、答えなければならない一連の質問があります。その1つは、欧米主導のグローバリゼーションとその衰退、そしてユーラシアと中国を関連づける別の種類のグローバリゼーションの出現です。

10年前、中国の習近平国家主席は、「一帯一路構想」(BRI)の一般的なガイドラインを発表しました。それは当時シルクロード経済ベルトと呼ばれていました。それ以来、すでに地球のほぼすべての大陸に約1兆ドルが投資されています。そして154か国がこのプロジェクトに正式に参加しています。

それから10年が経ち、世界はいわゆる「脱グローバル化」を含む一連の議論に直面しています。これは中国を半導体の世界市場から締め出そうとする米国の保護主義政策によって加速されています。このプロセスは、既存のグローバリゼーションのパターンに亀裂をもたらしました。しかし、それは「脱グローバル化」の始まりを意味するのでしょうか？

中国のキャッチアップとグローバリゼーションの行き詰まり

第二次世界大戦後、米国によって生み出されたグローバリゼーションは、特に1970年代以降、金本位制の廃止と変動相場制の導入により別の輪郭を獲得しました。それは「金融化されたグローバリゼーション」となりました。それは世界をあらゆる種類の新たな制度に引きずり込みました。国家への資本の出入りが猛烈な勢いで加速されました。それは地球の産業分布の再編を促進し、新たな領土取り決めに求めました。

米国における低インフレ(デフレではなく)の長期化は「中国製」の代名詞となりました。米国の政策立案者たちが想像もしなかったのは、中国を資本主義世界経済に組み込んだのが、長征の英雄であったことです。すなわち鄧小平です。

経済が金融化を強めたこの 40 年間で、米国が定期的に自己改革する能力は失われてしまいました。そして金融化社会がもたらす極端な不平等によってますます社会には深い亀裂が生じて行きました。

新たな金融危機が起きるたびに、それと歩調を合わせるように、中国と米国の距離は縮まっています。過去 40 年間に、中国は「3 つの巨大なマシン」を作り上げました。

交換価値を構築するためのマシン（中国を世界の価値生みマシンに変える）

金融機構（中国を世界最大の純債権国に変える）

使用価値を構築するためのマシン（中国は 20 年間で 4 万 2000 キロメートルの高速鉄道を建設し、人類史上最大のインフラ資材の輸出国となった）

この時点で、いわゆる「脱グローバル化」の物語に疑問を持たなければなりません。それではこの 3 つのマシンは新しい種類のグローバリゼーションの表象でしょうか。

まず金融の面から見ていかなければなりません。

- * ロシアをその経済ネットワークの不可分な要素として組み込むこと、
- * 大規模な生産能力と公共銀行（受託通貨の創設者）に基づくインフラストラクチャへ世界市場を統合すること、
- * BRICS 諸国と新しい経済統合の推進者中国との主体的な結合

一方、非金融的な統合には「中国の特徴を備えたグローバル化」が求められません。この新たな「グローバリゼーション」は、中国がその繁栄を輸出し始めるなら、国際分業体制が再構築されることになるでしょう。

この非金融的な統合はすでに始まっています。中国が作り出した通商の流れに乗る形で、他の国は経済計画を立てることができます。これが 1 つのポイントです。

もうひとつのポイントは多極化です。中国は覇権国となることには興味がない。しかし世界の統治システムに関する議論には関心があります。

中国は3つの主要な「国際貢献」計画を立ち上げました。

- (i) 国際開発、
- (ii) 国際安全保障
- (iii) 国際文化 への貢献です。

中国の考える統治システムは、1955年の有名なバンドン会議の原則に「案件の多国間的解決」(internationalization of factors)を加えたものと言えます。

ここに、未来におけるBRICS+とグローバル・サウスとの弁証法的関係が見出されるのです。

中国のニュートラルな立ち位置

ソビエト連邦の崩壊は、いくつかの負の結果を世界にもたらしました。

- * 新自由主義が「唯一可能な道」へと変貌してしまったこと。
- * 国際社会において社会権や労働権が後退してしまったこと。
- * 米国による軍事介入と軍国主義化したリベラリズムが、冷戦時代にも見られなかった規模で拡大したこと。
- * 国際政治におけるファシズムとナチズムの復活。

他方で、金融化経済にどっぷり浸かることによって資本主義を改革する能力が失われてしまいました。そこに一つの社会主義国が、経済大国として台頭してきた。それが中国です。その進路は、IMFや世界銀行が売り込んだ新自由主義のレシピをまったく反映していません。そのことが、米国支配体制の動揺を加速させる一因となっています。

今起きている中国を中心とした新たなグローバルゼーションは、その表現にすぎません。

ウクライナ紛争がもたらした結果のひとつは、さまざまな金融業務の基軸通貨としてのドルに基づく秩序への大きな挑戦でもありました。しかしそれだけでなく、ロシアが中国の経済圏内に組み込まれたことをしっかりと認識しておく必要があります。

それは経済史上例を見ない事象です。併合や経済的植民地化ではありません。エネルギーからハイテクまであらゆるレベルの交流に基づき、数千億ドルの投資を伴う数百の共同プロジェクトを媒介とするユーラシア・プロジェクトの実現の始まりです。

これは、国際信用市場における中国の地位（貿易黒字とドル準備高に象徴される）、巨大な内需の役割、そして顕在需要をはるかに超えるロシア連邦の巨大な潜在供給力によって可能となった事象です。

中国の繁栄は、さまざまな国の工業化や再工業化への可能性を開くものでもあります。アルゼンチン、ボリビア、ジンバブエ、インドネシアなどの事例は示唆的であり、中国企業の支援によって一次産品に付加価値をつけることができるでしょう。

要するに、BRICS+とグローバル・サウスの政治的将来は、一つは中国の将来、もう一つは各々の国内課題にどう向き合うかに大きく左右されるのです。
（了）

【翻訳チェック、中見出し 鈴木頌】

筆者のエリアス・カリル・ジャブール (Elias Khalil Jabour) は、ブラジルのリオデジャネイロ州立大学経済学部で経済計画の理論と政策を教える准教授。著書に『21世紀の社会主義経済発展：ボリシェヴィキ革命後の1世紀』（共著、Routledge, 2022）